トルコにおける広域交易の歴史とその世界遺産：バザールとハン

本田 依那（国際関係学科・学生）

はじめに

トルコは歴史的に様々な交易路が交差する地点に位置し、東と西を結ぶ重要な貿易拠点であった。そうした交易路に所在する町の中心部には、商業かつ文化活動の場として、伝統的商業施設であるバザールと隊商宿であるハンが併設された。しかし、流通や消費文化の変化の中で、現在では、その多くが、十分な管理を受けず、老朽化したまま放置されている。

筆者は 2024 年度後期から、イスタンブールに留学していた。アジアとヨーロッパを結び繁栄したイスタンブールには数多くのバザールやハンが今もなお残っている。ここでは自身の見聞や経験も交えながら、現状や保全問題について説明したい。

バザール／ハン

トルコ語で Çarşı と呼ばれるバザールは、ハン、モスク、行政施設の機能を併せ持つ商業地区や市場空間を指し、都市計画の中で商業と経済の中心として取り込まれた施設であった。ハンはこれらに隣接する形で形成された都市版のキャラバン・サライであり、隊商宿や倉庫の役割を担い、取引や商人同士の情報交換など交流の場としても発展した。セルジューク朝（11－12 世紀）の支配下のアナトリア半島で、交易路の要衝地域に設置・整備されたものとして、歴史的に確認できる（Yücel & Çemberci 2025；鶴田・高木 2009）。

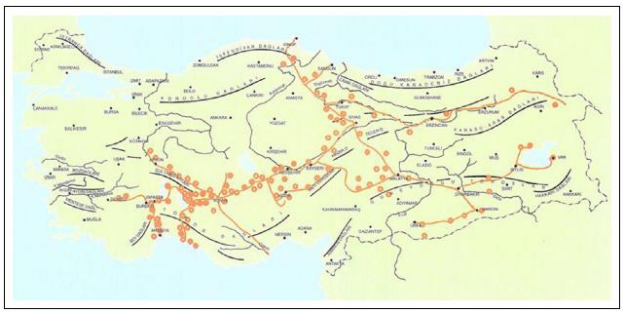

図1：セルジューク朝でのキャラバン・サライ：橙点
（Yücel & Çemberci 2025）

バザール／ハンの抱える問題

バザールやハンは、オスマン帝国時代（13 世紀末―）に発展して都市の中核を担うようになり、現在でも、イスタンブールでは、その繁栄と賑わいを目の当たりにする（写真1＆2）。

しかし近年、グローバル化に伴う社会・経済的構造の変化の中で、地方部に所在するものを中心に、その役目を失いつつあり、歴史的な商業地区は、老朽化を含めて多面的な課題に直面している。

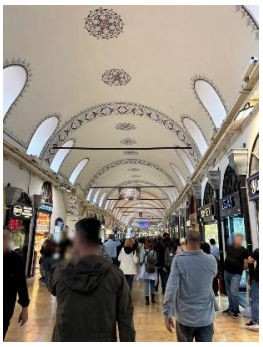

写真1（左）：イスタンブールのグランドバザール（Kapalıçarşı）
写真2（右）：バザール内の Zincirli Han（筆者撮影）

具体的には、郊外での大型ショッピングモールの出現とネット・ショッピングなどの新たな商業形態の拡大のなかで、旧市街のバザールは、アクセスの悪さや娯楽レジャー施設不足などが際立ってしまっている。また、本来は内部に併設されていた銀行や病院、行政施設など、商業を越えた社会的機能も移転してしまい、バザールの中には、放置や廃墟の様な状況となり、異なる用途への転用や勝手な増築・改築が行われたりするものも見られる(Vural-Arslan & Cahantimur, 2011)。

ハンでは、伝統文化の価値に関する認識の欠如により、所有者や利用者が自らの経済的利益を優先して不適切な改修を行うことで、歴史的建築の価値が失われている。この背景の一つが所有権の分散である。ハンは 20 世紀初頭までは所属するワクフ（イスラーム法に基づく寄進財制度）により一括管理されてきたが、その後、部屋ごとに分割して売却された。こうした中、区分所有者による自由な増改築や、定期的なメンテナンスの不履行による老朽化の進行が生じている（Benli, 2007）。

老朽化の進む Büyük Yeni Han

一例として、留学中に訪問した Büyük Yeni Han について紹介する。Büyük Yeni Han はグランドバザールから広がる歴史的商業地区の中心に位置し、1764 年に完成した市内で二番目に大きいハンである。完成以来、旅商、両替商、職人に宿泊とビジネスの施設を提供してきたが、現在では、固定型の工房や店舗オフィスを中心にして使用されている。しかし、それでも、老朽化や地震などによる壁の一部分の崩壊のほか、一階の中庭の回廊部分にまで拡張された店舗スペースや、中二階の増築など、他のハンと同様な問題が見受けられた（写真3）

写真3：Büyük Yeni Han：中庭回廊部分までの店舗の拡張や、崩れ落ちた壁面でのセメントによる補修（筆者撮影）

実際、ハンに工房を持つ男性 2 人に、ハンの修復・保全などについて話を聞いてみたところ、「個人が所有しているから政府も介入できない」、「介入したとしてもお金を請求されるだろうから誰もしたがらない」、「建物よりも自分たちが生計を立て食べていく方が優先」などの回答が多く、ハンに住み使用する人々にとってはただの建造物に過ぎず、ハン自体やその保全に対する意識が低いことが分かった。

歴史的商業地区の持続可能な未来のために：ブルサ

しかし、こうした問題を克服する試みも見られる。ブルサの歴史的商業地区の事例である。

写真4：ブルサのバザールとハン地区の航空写真（Vural-Arslan & Cahantimur, 2011）

ブルサの歴史的商業地区では、様々な復興・活性化プロジェクトが計画されたが、商人、職人たちと行政側との意見の不一致や自治体の怠慢により、頓挫していた。しかし、2008 年、ブルサはオスマン帝国発祥の地としてユネスコ世界遺産登録を目指し、新たなプロジェクトを開始した。その一つとして評価されているのがブルサ歴史的バザール/ハン地区プラットフォーム（BHBHDP）だ。

写真5：ブルサの Koza Han（筆者撮影）

地域共同体参加型モデルとして設立された BHBHDP の目的は商業地区の運営に関わる非政府組織と政府組織間の調整を行い、商人組合、自治体、市民団体の協力を促進することにある。BHBHDP はオスマン帝国時代のギルド制度（Lonca）の復活版ともいえる仕組みであり、事実上、商人が主体となって歴史的商業地区の未来について協働できる新たな枠組みを作り出している（Vural-Arslan, 2015）。

おわりに

地域共同体参加型のモデルの BHBHDP は、かつてブルサが直面していた老朽化などの課題を克服する過程で構築されたものであり、同様の問題を抱える他の歴史的商業地区にも応用可能である。公的機関に加え、地域住民や民間団体も協働するこのモデルを通じて、地域の実情に即した保護評価や持続可能な保全アプローチを提案し、トルコ各地に数多く残る歴史文化的価値を有する文化遺産の保護・活性化に繋げることができるはずである。

主要な参照・参考文献

鶴田佳子・高木亜紀子 2009 「トルコにおける市場空間の構成と活用に関する考察」『人間社会学部紀要』 No.820

Benli, Gülhan, 2007, “İstanbul Tarihi Yarımad’da Bulunan Han Yapıları ve Avululu Hanların Koruma Sorunları”, Yıldız Teknik Üniversitesi, Fen Bilimleri Enstitüsü

Vural-Arslan, Tulin & Arzu Cahantimur, 2011, “Revival of a Traditional Community Engagement Model for the Sustainable Future of a Historical Commercial District: Bursa/Turkey as a Case”, *Futures* 43(4)

Vural-Arslan, Tulin, 2015, “Developing a Strategic Approach for Managing Sustainable Revitalization in World Heritage Sites: Historical Bazaar and Khan District, Bursa, Turkey.”*Archnet IJAR: International Journal of Architectural Research* 9(1)

Yücel, Muhammed Fatih & Murat Çemberci, 2025, “The Impact of the Turkish Waqf System on International Trade and Logistics: A Network Theory Perspective,” *Yildiz Social Science Review,* 11(1)